

月岑宗印和尚は本山の142世で、古溪宗陳和尚の弟子であり、

後水尾天皇から「大興円光禅師」の号を賜りました。

室町幕府の崩壊後の動乱の時代を生き、秀吉により九州への配流や、

大徳寺一山の破却の命を受けた際にも師匠古溪和尚に近侍し苦難をともにしました。

慶長8年(1603)玉林院を建立しましたが、六年で火災に見舞われ焼失し、

十二年かけて創建当時と同じ規模の本堂(現存する本堂)を完成させました。

大徳禅寺誌に「月岑みずから衣盂をつくし」と再興に向ける熱意が記されています。

そして、その翌年63歳で遷化されました。

玉林院開祖

月岑宗印和尚 四百年遠忌



■ 法 要 ■ 令和4年4月5日(火)

■ 記念茶会 ■

日 時 令和4年10月29日(土)・30日(日)

会 場 玉林院 総見院

会 費 35,000円

濃茶席 担当：玉林院

薄茶席 担当：洞雲会 常楽会 玉林会 *創会順

点心席

展観席 野村美術館

主 催 玉林院茶の湯 護持会

◎記念茶会の申込み方法

- ①6月より「振込取扱票」を玉林院月釜受付、月釜担当の先生、又は寺にてお渡し致します。
 - ②指定の口座に茶券代をお振り込みください。振込確認後、記入された住所に茶券を郵送致します。
 - ③同伴者がいる場合は代表者がまとめてお振り込みください。(別々に振り込むと同じ茶席のお入りになれません。)
- *コロナ感染予防のため、先着400名と致します。

※ご不明な点は、茶会受付又は、寺にお尋ねください。電話:075-491-8818

◎ 収益は遠忌記念事業である、文化財修理の費用に充てます。
重要文化財 高麗仏画「釈迦如来像」、重要文化財 南明庵「赤樂の敷瓦」



釈迦如来像

重要文化財 高麗仏画 「阿弥陀仏画」について

玉林院所蔵の^(注)高麗仏画は、本来「阿弥陀仏図」として描かれたものですが、日本に渡り「釈迦如来仏像」としてあがめられました。当院では文殊、普賢の脇侍菩薩像とともに釈迦三尊図の形態となった三幅対として伝わっています。

玉林院の釈迦如来像は、端正なお顔の表情。朱の袈裟に金泥で精密に描かれた蓮華文。時を経ても鮮やかな赤の顔料の使用等から、十三世紀末から十四世紀前半（日本では鎌倉幕府時代）の高麗文化の最盛期に描かれたものと考えられます。

しかし、700年に及ぶ年月を経て、玉林院の釈迦如来像も、蓮華文や各部の剥落が進み、専門家から早期修復の必要を提言されていました。

この度、各界の皆様のご尽力で修理に取りかかれることになりました。この貴重な仏画が数百年後の次の世代に伝えられることを願っています。

(注) 朝鮮半島で470年間に渡り仏教文化を華開かせた高麗で描かれた仏画は、現在世界に165点あまりしか確認されておらず、その内100点以上が日本に伝わっている。



赤樂の敷瓦

重要文化財 南明庵 「樂焼敷瓦」について

南明庵は、寛保二年(1742)大阪の豪商鴻池了瑛が、玉林院八世大龍和尚にはかり、表千家如心斎の好みによって造られた位牌堂と茶室です。山中鹿之助(鴻池の祖)の位牌堂の両側に「蓑庵」「霞床席」という二つの茶室を有しています。

蓑庵は、天井を三段に変化を見せ、中柱には赤松の曲がり柱を用い、壁は侘びたすさ壁でめぐらせた草庵造りの小間の茶室です。

霞床席は、床に違棚を組み入れ、格天井、貼り付け壁と書院風ですが、柱は杉丸太、床の框は煤竹を入れ、書院と草庵との融合を図った茶室です。この席は、違い棚を“霞”として、棚と壁の間に富士の軸をかけることで名高いです。

又、南明庵の^(注)基壇は、樂長入作の赤樂の敷瓦がはめ込まれていることでも知られています。

この度、樂直入様からのお申し出で長年の風雪で傷んだ約百数十枚の敷瓦の補足にとりかかっています。

(注) 基壇とは、敷地より一段高く造った建物の基礎。その敷石に樂焼きを使っているのは全国でも南明庵だけです。

